

日本航空が取り組むスポーツ関連事業

2017.10.19 日本航空株式会社



	テーマ	内容	具体的な取り組み例
1 スポーツを通じた社会への貢献	スポーツへの支援を通じた次世代育成	スポーツ人口の拡大と未来のアスリートの発掘・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・JALネクストアスリートプロジェクト ・JALネクストアスリートマイル
	地域活性化への貢献	地域貢献と需要喚起を目的とした日本各地でのスポーツイベントへの協賛	<ul style="list-style-type: none"> ・JAL千歳マラソン ・JAL向津具ダブルマラソン ・宮古島トライアスロン
2 スポーツを通じた新たな需要創造	日本人を対象とした旅行需要喚起	閑散期における需要喚起を目的とした海外スポーツイベントへの協賛	<ul style="list-style-type: none"> ・JALホノルルマラソン ・ホノルルハーフマラソン・ハパルア ・ホノルルセンチュリーライド
	外国人を対象とした新規訪日需要の創出	訪日外国人をターゲットとした、スポーツイベント・日本の自然を生かしたアウトドアスポーツの訴求	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・アクティビティを組み込んだ海外発旅行商品の造成 ・各種インバウンド向けチャネルでの訴求
	障がい者による新たな旅行需要の掘り起し	障がい者を対象としたスポーツ・アクティビティの機会提供（ユニバーサルスポーツツーリズムの推進）	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす利用者を対象とした北海道デュアルスキーツアーの企画

その他、航空運送事業者として、スポーツイベント実施時の旅客輸送、スポーツ器具の輸送に関して、各種協力を行っている。



JAPAN AIRLINES

事例紹介①

スポーツへの支援を通じた次世代育成

JALネクストアスリートプロジェクト

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けてJALが行っている取組みの1つ。スポーツを通じた次世代育成を目的として、以下の施策を実施中。

スポーツ能力測定会

子供たちのスポーツ離れが進み、体力・運動能力が低下傾向にあると叫ばれる中、JALは全国の自治体をまわり、子供のスポーツ能力測定会を行っている。

専用の測定機器を使用し、スポーツ能力を測定することで、子供たち一人一人の特性に合ったスポーツを紹介。

それまで取り組んだことがなかったスポーツに触れ、そこで才能を開花させるきっかけを提供することで、NEXT ATHLETE(未来のアスリート)誕生の一助になることを目指している。



パラアスリートの発掘

東京2020大会の成功は、オリンピックだけではなく、パラリンピックの成功なくして達成し得ない。2020年に向けてパラスポーツが盛り上がり、社会に根付くためには競技力の向上が不可欠である。

スポーツを試してみたいがどんなスポーツができるのか・何が適しているのか分からないという障がい者のもとを訪れて運動能力の測定を行い、個々人に応じた競技種目および練習場所をご紹介することで、未来のパラアスリートを発掘する。

※対象はお子様に限りません。

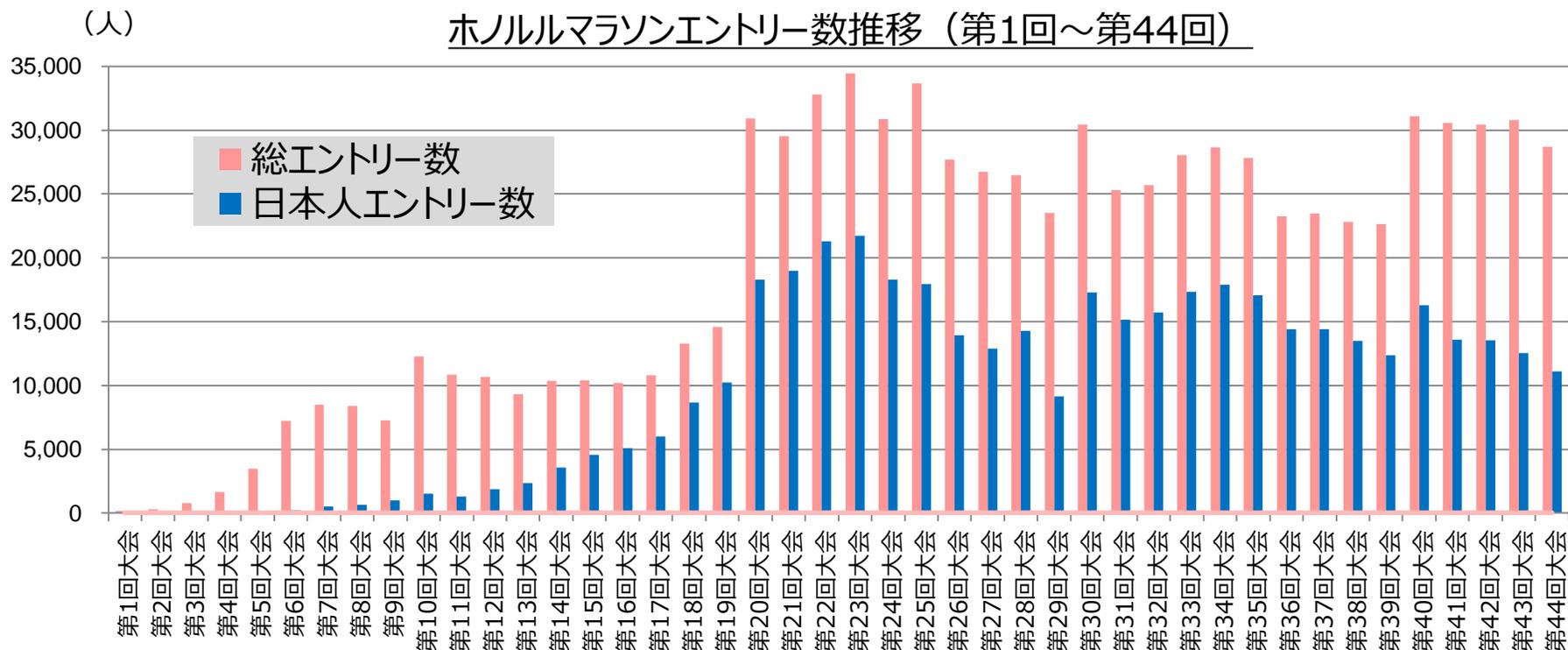


事例紹介②

スポーツイベントへの協賛による
新たな需要創造

1973年12月に第1回大会が開催され、今年で45回目を迎えるフルマラソン大会。今年は12月10日（第2日曜日）に予定している。

開催当初は閑散期の需要喚起を目的としていたが、地元関係者やボランティアの尽力により、日本からは臨時便設定や使用機材の大型化が必要なほど大規模の大会に成長し、毎年参加者による数々のドラマが生まれている。ゴールの制限時間がなく初心者でも走りやすいのが一番の特徴で、毎年約3万人が参加され、日本人の参加者が4割弱を占めている。



(参考) 第44回大会の様様



JAPAN AIRLINES



第45回大会についての詳細については公式HPを参照ください。
→ <http://www.honolulumarathon.jp/>

ホノルルハーフマラソン ハパルア



JAPAN AIRLINES

- ▶ 例年4月に開催されている、もう1つのホノルルマラソン。「ハパルア（ハワイ語で半分）」の名が冠されている。（弊社は2014年度より協賛）
- ▶ 2012年にスタートしたばかりでまだ知名度は高くないが、フルマラソンほどの気負いもいらず参加できる大会として今年度には8,339名(日本人は1,937名)が参加するなど、徐々に認知が広まっている。
- ▶ ホノルルマラソンと同じくオアフを駆け抜ける、ホノルルマラソンの魅力を凝縮したファンランナー向けのコース設定。スタート地点であるワイキキのデューク・カハナモク像からアラモアナ通、アロハタワーで折り返しダイヤモンドヘッドを周回してゴールのカピオラニ公園を目指すコース。





事例紹介③

障がい者による新たな
旅行需要の掘り起し

車いすで雪あそびツアー



JAPAN AIRLINES



(共同リリース)

2017年9月8日
日本航空株式会社
クラブツーリズム株式会社
一般社団法人 ata Alliance

JAL × クラブツーリズム × ata Alliance 『車いすで、雪あそび。』ツアーを共同企画

日本航空株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:植木義晴、以下「JAL」)、クラブツーリズム株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:小山佳延、以下「クラブツーリズム」)、一般社団法人 ata Alliance(本社:長野県上水内郡、代表:中岡亜希、以下「ata Alliance」)の3社は、車いすや杖を使用している方に、冬の北海道の大自然を楽しんでいただけるツアープログラムを企画し、9月8日より販売開始しました。

JALグループでは、誰もが旅、スポーツ、文化を楽しむことができる社会の実現を目指し、全てのお客様に安心してご旅行いただけるよう、さまざまな場面でのアクセシビリティを向上するための取り組みを進めております。また、クラブツーリズムでは、「旅をあきらめない・夢をあきらめない」をテーマに、お身体が不自由な方でも安心してご参加いただけるバリアフリー旅行を20年にわたり企画・販売しています。さらに、ata Allianceでは、自然環境下などバリアフリー環境が整わないフィールドにおいて専門性の高い機材と技術を用いることで、障がいがある方一人一人の状況・状態に適切したスポーツ・アクティビティを提供するアダプテッドスポーツツーリズムを推進しています。

このたび、3社の持つアセット・ノウハウを最大限に活かし、「お身体の不自由なお客さまにも、ご家族と一緒にご旅行を存分に楽しんでいただきたい」との想いから、ata Allianceの提供するデュアルスキー(着座式スキー)体験を組み込んだ、冬の北海道の魅力を満喫いただけるツアーを販売します。

また、ツアーに先立ち、航空機での旅行に対するご不安を解消し、安心してツアーにご参加いただけるよう、羽田空港にて航空機に搭乗するまでの施設やお手続きをご体験いただく見学会を実施します。

これらのプログラムを通じて、冬の北海道の大自然に触れ、日常では味わえない体験をしていただくことで、「旅はすばらしい」と感じていただけるよう、安心で楽しいツアーをお届けします。



【プログラム概要】

1 北海道ツアー「車いすで、雪あそび。キロロリゾートで過ごす北海道3日間」

期間: 2018年1月20日(土)~22日(月)3日間

宿泊先: キロロ トリビュートポートフォリオホテル北海道(洋室)

内容: デュアルスキーまたはバイスキー、およびシェルパをご体験いただけます

<デュアルスキー>



立位のとれない方(座位の保持ができない方)でもスキーの感覚を体験いただくために開発された着座式スキー。操縦はライセンスを取得したパイロットが行います。

<バイスキー>



立位のとれない方(座位が保持できる方)でもスキーの感覚を体験いただくために開発された着座式スキー。操縦はインストラクターが行います。

<シェルパ>



大型スノーモービル。お子様からお年寄りまで、スキー場やホテルを見下ろす雪山の絶景をお楽しみいただける乗り物です。

2 羽田空港見学会

期間: 2017年12月16日(土)日帰り

対象: 北海道ツアーにご興味をお持ちの方。

内容: ツアー当日の搭乗便を想定し、集合~ご搭乗手続き~保安検査~搭乗口までの動線を実際にご体験いただけます。

また、当日スムーズにお手続きいただけるよう、ご搭乗に際しての疑問やご不安に感じられている点などに、空港などに勤務するJALスタッフがご答えいたします。

参加費: 無料(要予約)



【ツアー(プログラム①)販売概要】

発売日時: 2017年9月8日(金)16:00~

旅行代金: 79,000円(2名1室の場合/おひとり)

最少催行人員: 20名

申込条件: 1名様からお申し込みいただけます。

添乗員: バリアフリー旅行に精通したスタッフが同行します。

協力: 旭川シュプールクラブ、NPO法人「手と手」、信州大学 U.S.I. Research

ツアー詳細は下記 URL でご確認ください。

URL: <http://www.club-t.com/theme/barrierfree>

【旅行企画・実施】

クラブツーリズム株式会社

観光庁長官登録旅行業第1693号・旅行業公正取引協議会会員・JATA正会員

以上